小野随心院は勧修寺の東なり、曼陀羅寺と号す。真言宗にして、開基は仁海僧正なり。法務は小野御門跡と称す、摂家の御連枝住職し給ふ。〔開基仁海は小野僧正といふ。寛仁二年六月大に旱す、此僧正に勅して神泉苑において請雨経の法を修せしむ。時に大雨降事三日三夜、其後九度詔ありて皆雨をふらす、世人雨僧正と呼ぶ。永承元年五月十六日寂、年九十二。以上元亨釈書〕

小町水〔門内南の薮の中にあり。此所は出羽郡司小野良実が宅地にして、女小野小町つねに此水を愛して艶顔を粧ひしとぞ〕

栢の樹〔厨の前にあり、深草少将此地に百夜かよひ植置きしなりとぞ〕

深草少将の通ひ路〔醍醐往還の西側薮の中にあり。墨染の南欣浄寺の地より、小町が宅へ百夜のかよひ路なり。竹林といへどもいにしへより竹一株も生ぜずといふ〕桜塚〔小野村の西にあり、小野小町が文塚とも、一説には後小野宮道の墓ともいふ〕野色山〔道の西にある小山なり〕員塚〔四位少将百夜通ひし数を積し所なり〕